

2026年5月12日

各位

会社名 株式会社三洋堂ホールディングス  
代表者名 代表取締役最高経営責任者兼 加藤 和裕  
最高執行役員  
(東証スタンダードコード番号: 3058)  
問合せ先 取締役執行役員 伊藤 勇  
経営企画室長  
(TEL: 052-871-3434)

特別損失（減損損失）と法人税等調整額（損）の計上及び、  
連結業績予想と実績値との差異  
並びに個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

この度、2026年3月期に下記の通り、特別損失（減損損失）と法人税等調整額（損）を計上することとなりましたのでお知らせいたします。また、2026年2月13日に公表した連結業績予想と本日公表の実績値に下記の通り差異が生じたのでお知らせいたします。さらに、2026年3月期の個別業績につきまして、前期実績値との間に差異が生じたのでお知らせいたします。

## 記

## 1. 特別損失の発生及びその内容

2026年3月期決算において、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、収益性の低下が見込まれる店舗の建物等の固定資産についての減損損失を、連結決算では50百万円を特別損失として計上し、個別決算では46百万円を特別損失として計上いたします。

## 2. 法人税等調整額（損）の計上及びその内容

2026年3月期決算において、今後の業績見通し等を踏まえ、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果、連結決算及び個別決算において税金費用として法人税等調整額（損）を61百万円計上いたします。

## 3. 2026年3月期 連結業績予想数値と実績値との差異(2025年4月1日～2026年3月31日)

(単位: 百万円、百万円未満切捨て)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	17,000	150	170	200	27.46
今回修正予想 (B)	17,249	268	279	340	46.74
増減額 (B-A)	249	118	109	140	—
増減率 (%)	1.5	79.0	64.5	70.2	—
(ご参考)前期実績 (2025年3月期)	16,605	123	168	177	24.41

(差異の理由)

売上高は、トレカ部門や文具・雑貨・食品部門など複数の部門が堅調に推移したことにより、全体では前回予想を2億49百万円上回る172億49百万円となりました。また、販売費及び一般管理費が予想を上回ったものの、売上総利益の増加により、営業利益及び経常利益は前回予想を上回りました。これらの結果、減損損失及び法人税等調整額(損)を計上したものの、親会社株主に帰属する当期純利益は前回の予想を上回る3億40百万円となりました。

#### 4. 2026年3月期個別業績の前期実績値との差異(2025年4月1日～2026年3月31日)

(単位：百万円、百万円未満切捨て)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期(2025年3月期) 実績(A)	百万円 1,952	百万円 74	百万円 110	百万円 130	円 銭 17.93
当期(2026年3月期) 実績(B)	1,948	102	140	215	29.55
増減額 (B-A)	△4	28	30	84	—
増減率 (%)	△0.2	38.5	27.9	64.8	—

(差異の理由)

上記の個別業績の前期実績値との差異は、子会社である株式会社三洋堂書店の店舗減少に伴い貸貸収入が減少した一方で、販売費及び一般管理費が減少したことに加え、子会社に対する関係会社貸倒引当金戻入額46百万円(前期は29百万円)を営業外収益に計上したことによるものであります。

また、「1.特別損失の発生及びその内容」に記載の減損損失(前期は47百万円)及び「2.法人税等調整額(損)の計上及びその内容」に記載の法人税等調整額(損)(前期は61百万円の法人税等調整額(益))を計上した一方で、投資有価証券売却益1億82百万円を計上したことから、当期純利益は2億15百万円となりました。

以上